

“子どもの“からだと心”に興味があるさまざまな立場の人が、  
みんなで“ワイワイ・ガヤガヤ”議論するきっかけの場



# 子どものからだと心・研究会議 In 新潟

2025

6/21 (土)

テーマ

## 子どもの居場所づくり

午前の部 10:00～12:00  
午後の部 13:00～16:45

### ●場所

[対面]長岡市中央図書館2階講堂

※先着50名

[オンライン]ZOOM ※ID、パスワードは申込後にご連絡します

### ●対象者 子どものからだと心の健康に関心のある方

### ●参加費 無料

### ●プログラム

1. 基調講演 野井真吾 (日本体育大学教授)
2. 子どものからだと心白書のダイジェスト報告
3. 新潟県内の実践報告
4. パネルディスカッション テーマ：子どもの居場所づくり
5. 参加者同士の意見交換会
6. 絵本作家トークショー

### ●問い合わせ先 子どものからだと心・研究会議in新潟事務局 亀岡雅紀 [karada.niigata@gmail.com](mailto:karada.niigata@gmail.com)

申込はこちら▶  
申込× 6/14 (土)



※メール申込：別添の申込書に必要事項を  
明記の上、問い合わせ先にご送付下さい

主催：子どものからだと心・研究会議in新潟事務局

共催：子どものからだと心・連絡会議

(公財)長岡市スポーツ協会

長岡市健康・体力づくり指導者会

後援：長岡市・長岡市教育委員会

新潟医療福祉大学、新潟市教育委員会、

新潟県保育連盟、新潟市私立保育協会

(予定)

## 子どものからだと心・研究会議 in 新潟 開催のご挨拶

2025年2月は、立春を過ぎてから全国各地で大雪に見舞われました。雪の銀世界はきれいな景色ですが、積もった雪は溶けてしまえば跡形もなく消えてしまいます。また、その雪解けは日光や風や雨があっただけで進みます。人間が自然をコントロールできない現実を痛感します。

雪といえばスキーやそり遊び、学校では雪合戦。除雪で空き地に積み上げられた雪山を使って子どもの頃に遊んだ記憶があります。プラスチック製で長靴に付けるミニスキーは、“本格的”なスキーに行けない町の子どものために楽しい遊び道具でした。そういえば最近、空き地の雪山を使って遊んでいる子どもを見かけません。近所にいる子どもたちは、雪山で遊ぼうとすると「危ないから…」と親に止められています。むしろ親と一緒に遊ぼうとしません。空き地の雪山に登って埋まり、長靴が抜けずに困ったり、長靴に雪が入って靴下が濡れてしまい、足が冷たくなっても遊んでいて霜焼けになったり…などの経験もないまま「雪」＝「除ける」という図式だけが今の子どもたちの記憶に残るのでしょうか。一方、山間部の知人は「最近の子どもは雪かきの手伝いをしないから、足腰が弱くなっている」と嘆いています。雪かきはそれ自体が貴重な身体活動であるということですが、思えば生活の中の身体活動そのものが気づかぬうちに減っています。利便性と効率化により人間は知らないうちに退化させられているのでしょうか。

ところで最近「体験格差」という言葉が溢れています。例えば、学校で行われる部活動は放課後の子どもの活動の機会を提供していたと思います。それがなくなりつつある今、地域移行という耳触りの良い言葉のもと、子どもの活動の機会が大人の都合で区切られてはいないでしょうか。秘密基地だったり、子どもたちだけでも安心して過ごせる場所だったり、子どもが主役だったはずの居場所が、大人本位に作り変えられてしまっているようでなりません。

子どものからだと心・研究会議 in 新潟は、地方の小さなつぶやきをお届けしようと始まり、今年3年目を迎えることができました。今回は「子どもの居場所」をテーマとして、6月21日に長岡市で開催します。オンライン配信も行います。当日は野井先生の基調講演と子ども白書2024年版の解説、新潟県内における子どもの居場所づくり実践報告と意見交換、さらに初の試みとして、絵本作家・あおきひろえさんのトークショーと盛りだくさんの1日です。会場案内や当日のスケジュール詳細、参加申し込み等は随時ホームページ等をご確認ください。

山崎実行委員長はじめ新潟スタッフ一同、みなさまのご参加をお待ちしております！

(実行委員・粟生田博子)